

2023 年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	総合演習VI 「会計と経営・経済」
担当教員名	金子輝雄・池田享誉
科目 の テ ー マ	<p>本総合演習VIは前半を金子、後半を池田の二名で担当する。</p> <p>(前半) 受講者の興味関心や研究テーマとの関係において財務会計制度及び税務会計制度(所得課税を中心とする)の今日的諸問題の研究を行う予定である。一例として、SDGs実現のための新たな会計モデル、証券市場の改革と IFRS の普及、資産負債アプローチの背景、確定決算基準の存廃、公正価値測定、GAFA を中心とする多国籍企業の租税回避行為と新たな税制の枠組み等を予定している。</p> <p>(後半) 経済的には資本主義、政治的には民主主義である現代社会は、「資本」とその増加分である「利益」の影響下におかれていると言っても過言ではない。この「資本」と「利益」を記録・計算するのが、「会計」である。本演習では、「会計」と「社会」とのかかわりについて、とくに「会計と経営」、「会計と経済」に焦点をあてて議論し、それらが社会に及ぼしている影響について考察する。</p>
科目 内 容 ・ 方 法 等	<p>(前半) 選んだテーマに関連する文献を読み込んで、それに基づいて討論を行う。現在、筆者の関心のあるテーマは、持続可能な社会の実現に向けて会計及び税制の観点から提言を行うことである。つまり株主投資家のための会計から社会及び自然環境課との共存を意識した新たな企業会計の在り方を考え、また、税収の確保のための課税ベースの見直しと担税力に応じた公平な課税の実現に向けた税制の改革を研究するということである。これらを念頭に置きながら、受講者とディスカッションを重ねていきたい。</p> <p>(後半) まず、「資本」とその増加分である「利益」を記録・計算している「複式簿記」の構造と役割を確認したうえで、「財務会計と管理会計」が「経営と経済」に及ぼしている影響(例えば、税、配当、賞与、給与、投資・与信等経済的意思決定、その他経営上の様々な意思決定への情報提供等)について議論する。それらの議論を通じて、資本主義と民主主義の関わりについての理解を深めていく。</p>